広　報　誌

わかたけ

2015．1
8号
社会福祉法人 宰府福祉会
http://saifu-fukushikai.com
法人本部事務局
福岡県太宰府市大佐野 761-1
発行責任者：草本武俊
編 集：広報委員会

謹賀新年

本年も何卒宜しく
お願い致します

やまもも

ゆり工房

宰府園

年頭のごあいさつ

社会福祉法人 宰府福祉会　理事長　草本武俊

新年あけましておめでとうございます。

皆様には清々しく新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

旧年中は、利用者・ご家族の皆様、地域の皆様、行政並びに関係機関等の皆様から法人の事業運営に対しましてあたたかいご支援とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

今年も利用者の皆様に、安心・安全の豊かな生活と生き生きとした活動を、そして地域の皆様の安全・安心な地域生活に寄与することを目指して様々な取り組みを進めてまいります。

今、少子高齢化や家族機能の変化などにより、地域の生活課題や福祉ニーズが多様化・複雑化している中、社会福祉法人のあり方が問われ、地域の多様な福祉ニーズに対応する「地域における公益的な活動」が求められています。各福祉領域にも、高齢者の地域包括ケアシステムの構築、子ども・子育て支援新制度での包括的、一元的サービス提供体制の実現、障がい者の地域生活移行、就労移行などの地域生活支援事業の充実、生活困窮者自立支援法の制定などにより充実・強化が行われます。

こういう状況にあって、まずは、創立以来一貫して障がい福祉領域に取り組んできた宰府福祉会として、もう一度全職員で利用者のニーズに応えた支援ができているのか、また利用者本位の支援ができているのかを問い、適切な支援を充実させ、質の高いサービスの提供に努めなければならないと考えています。障がい福祉領域には、職場や地域の人々に対して、特に、理解と協力・連携を得ていくという課題があります。誰もが地域の中で自分の能力を生かし、支えられながら自分の意思で暮らすことができる、社会の実現を目指すことです。

このような障がい福祉の課題に対し、宰府福祉会の全役職員が試行錯誤しながらも解決を図り「新しい価値の創造」に努力していきます。そして、この取り組みの中で「地域ニーズに対応した地域貢献活動」に取り組んでいきたいと考えています。

この質の高いサービス提供には、個々の職員と個々の利用者との関係の中でサービスが提供され、一人ひとりの職員の力量にサービスの質が左右されることになります。このサービスの質は個々の職員の専門性にかかっていますので、職員の専門性を高めるために、特に今年は、積極的に人材育成に取り組むこととしています。

昨年、法人本部事務室、研修室・会議室を整備することができました。法人本部機能を強化して、地域ニーズに対応した事業展開、法人理念の実現に貢献できる人材育成、適正な事業経営が図られる組織のあり方などを充実して、一段と飛躍できるよう、社会福祉法人としての使命を果たしていきたいと考えています。

今後とも引き続きご支援とご協力をお願い申し上げますとともに、皆様のご健康とご多幸を祈念し、年頭のご挨拶とさせていただきます。

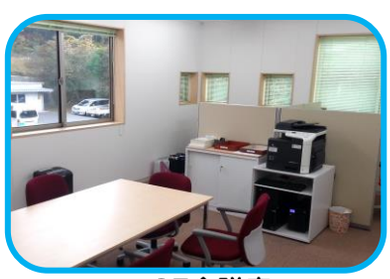
皆様のご協力により本部棟が完成しました。（平成26年9月30日）

すみれ園　ほっとアルバム

本部棟が完成しました！

地域に根ざした法人を目指してまいります。

プロジェクター完備



2F会議室

2F事務室

1F研修室

すみれ園のお部屋の壁面は、子どもたちの作品でいっぱいです！

放課後等デイサービスの子どもたちと焼き芋をしました！

各事業部会の経過報告

生産・販売等活動事業部会

「生産・販売等活動事業部会」は、各施設・事業所で生産・販売し、利用者に工賃の引き上げをしていくために設置しました。しかしその現状は厳しく、工賃水準も福岡県の平均に届かない事業所もあるので今後は、積極的に生産活動や販売を行ない、法人全体で商品開発をし、売り上げを利用者の工賃に貢献できるように実施・設定して推進していきたいと考えています。

これまでに部会を3度開催し検討。業務委託を見直し、事業としてマッチングしたものがあれば、外部発注しなくても、法人内でも売り上げに繋がり工賃アップに結びつくようにすることや、各事業所で生産している商品を組み合わせ、ギフト商品として販売したり、そのカタログを作成し、注文が取れる様な仕組みを検討しています。また、材料も一括で購入出来ないか、各事業所がそれぞれで参加していた販売会に法人として商品を出したり、宰府園まつりやその後の販売会で販売を実施しました。まだまだ結果としては出ていませんが、この部会を中心に全事業所の工賃向上を目指して参りますので、宜しくお願い致します。

（部会長　安川　幸正）

© 2010 熊本県くまモン#11423

© 2010 熊本県くまモン#11164

地域生活支援事業部会

「地域生活支援事業部会」は、そこに暮らす障がいのある人たちの様々なニーズにきめ細やかに対応できるよう、サービス提供システムをくることを目指し、発足しました。

①法人内の連携と協力支援体制の構築②各種福祉サービスのあり方を検討し、地域支援に直結させる③法人独自の社会資源リストの作成と活用…の三点を目標に、七月からスタートし、現在までに三回実施しました。メンバーは「入所生活」「就労移行」「生活訓練」「在宅生活」「児童福祉」等の視点に立ち、日々、支援に携わる職員により構成されています。

目的・目標を踏まえ、まず初回部会では、各事業所からリーフレットやパンフレットなどを持ち寄りました。事業所紹介を通じ、改めて、法人内事業所のサービス提供の現状を知ることから始めてみました。そして、計画相談への取り組みが本格化したことを受け、その概要や自立支援協議会について学習しました。さらに具体的に地域支援に取り組むために、困難事例の検討も行っています。サービス調整が難しいケースや制度の枠組みに当てはまらない事例を基に、メンバーが意見・情報交換することで、見地は広がります。

部会を通じ、福祉職に携わる者としての使命を再認識する一方で、地域生活支援の実現には時間を要することを痛感します。何事も一朝一夕では成しえません。まずは、それぞれが今できることに取り組み、日々、実践を重ねていくこと。一人ひとりの「点」が「線」へとつながり、やがて「面」＝地域を支えることができるよう、マンパワーを養っていきたいと思います。

（部会長　大内田　美津子）